

# High School Human Rights

ヒューマン ライツ



(高校人権教育通信 第9号) 平成26年(2014年)2月18日  
発行 長野県教育委員会教学指導課心の支援室  
発行人 永原 経明

## 1 はじめに

生徒一人一人が互いに認め合い、切磋琢磨し成長していく姿は、私たち教員が何よりも望んでいるものではないでしょうか。「人権教育推進プラン」(県教育委員会)にもあるように、安心した学びの中で互いのよさや可能性を認め合う人権尊重の視点に立った学校にするには、「人権が尊重される」環境・人間関係・学習活動をつくっていくことが大切です。そこで今回は、教員自身が人権感覚を磨きながら、生徒たちが主体的に学び、自尊感情を高め、コミュニケーション能力を養い、そのことで学習効果が高まることを目指した授業実践を紹介したいと思います。

## 2 生徒の主体的な思考と共感を生み出す「書道」の授業実践例

K先生の書道では、生徒とのコミュニケーションを大切にしながら、生徒一人一人の主体的な判断や生徒同士の学び合いを意識した授業をしています。生徒の主体性を損なわず自由な発想を引き出す発問や課題の提示に心がけ、作品制作まで生徒の意識をつなげていきます。そのため、授業への集中度は高く、生徒たちが一筆一筆「考えて」書いていることが伝わってきます。提出作品選定時には、なぜその作品を選んだのかをじっくり聞いた上でアドバイスや意見交換をすることで、生徒の自主的な判断を尊重しています。また、生徒同士が作品を鑑賞し合うことも大切にしており、他者の作品をよく見て互いに認め合う活動が、共感を生み出し、他者を大切にするという人権が尊重される環境づくりにつながっています。その結果、作品は多くの展覧会で優秀な成績を収めています。



## 3 具体的な社会的課題の学習を通して様々な視点を獲得し、自ら考え判断する「政治経済」の授業実践例

Y先生の政治経済では、現在進行形の社会的課題を教材化し、右のようなプリントを用いながら、生徒の主体的な学びを意識した授業を展開しています。生徒たちは、具体的な社会問題について、何が問題なのか、どのような視点があるのかということをも面的に学んでいきます。その中で、関わっている様々な人々の立場を考えたり、その背景を想像したりすることが、他者の人権の大切さを意識することにつながっています。プリントの最後には必ず、生徒自身がその課題に対してどのような意見を持つのか記述する欄が設けてあります。様々な視点を獲得した上で、自ら考え自己決定していく過

平成25年度政治経済授業プリント YES or NO ② ～「赤ちゃんポスト」はありだと思わずにどう思う?～ No.28

3年 組(氏名)

**STEP 1** まずは、新聞記事をじっくりと読み、「赤ちゃんポスト」や「出生前診断」について、正しく理解しましょう。また、この場でインターネットを利用できる人は、「赤ちゃんポスト」や「出生前診断」について検索し、どのような意見や質問が寄せられているか、確認しましょう。(15分)

**STEP 2** 続いて、「赤ちゃんポスト」や「出生前診断」について、新聞記事を参考に、次の点を確認しましょう。(5分)

「赤ちゃんポスト」について

①熊本市慈恵病院の「赤ちゃんポスト」に預けられた赤ちゃんは、6年間で何人? .....人

②そのうち、思い直した実の親に引き取られたのはどのくらい? .....

「出生前診断」について

③「出生前診断」が始まって半年、この間に受診した人の数は? .....人

④そのうち、確定診断で陽性だった人の数は? .....

⑤陽性だった人のうち、人工妊娠中絶をした人はどのくらい? .....

**STEP 3** 「赤ちゃんポスト」に賛成の人、反対の人に分かれて意見を発表しあいましょう。(10分)

**STEP 4** 「出生前診断」に賛成の人、反対の人に分かれて意見を発表しあいましょう。(10分)

**STEP 5** 新聞記事を読んだりインターネットで調べてわかったこと、ほかの人の意見を聞いて考えたことなどを参考に、「赤ちゃんポスト」や「出生前診断」について賛成か反対か、もう一度、自分の立場を明らかにしよう。※判断保留はなし。いくらかでも気持ちの強い方に決定しよう。(3分)

私は「赤ちゃんポスト」の設置については 賛成 反対 です

私は「出生前診断」の利用については 賛成 反対 です

**STEP 6** 「赤ちゃんポスト」や「出生前診断」について、あなたが思ったこと、考えたことを自由に書きましょう。  
※字数は最低でも200字以上

--	--	--	--

程を通して、公正な基準で判断することの大切さと難しさも学んでいます。また、プリントには、作業の目安時間が示されており、生徒は見通しを持って取り組むことができます。なにげないことですが、こうした工夫が生徒の人権を尊重しつつ、学習効果を高める取組につながるのではないのでしょうか。Y先生の授業後には、生徒たちが自分の思いや考えを伝え合う場面が何度も見られ、HRや他の授業でも話題となることが多々あります。

#### 4 簡単には答えの見つからない問いを共有し、自らを振り返り他者を尊重しながら思考を深める対話型「倫理」の授業実践例

M先生の倫理では、鉛筆もノートも必要ない時間があります。

右の写真のように円になって座り、生徒が「いじめはなぜおこる?」「自由ってどういうこと?」といった簡単には答え

の出ない問いを出すところから始まります。そしてここで、

「コミュニティボール」と呼ばれる毛糸のボールが登場しま

す(右参照)。このボールを持っている生徒が自分の考えを発表

します。次に意見を述べたい生徒は手をあげてボールをもらい発言し

ます。全員の意見を聞きたいときはボールを一周させます。自分自身で考える、自分の考えを伝える、

他者の話を聞く、自分の考えを振り返ることを繰り返す過程を通して、自らの考えが深まり思

考力や表現力が向上するとともに、他者の意見に耳を傾け、その思いを理解し受容する態度

を身につけることにつながっています。また、この授業は、生徒全員が平等に発言でき

る上、「発言したくないときはパスできる」

ことも認められており、生徒一人一人の立場

を尊重したスタイルで実践されています。先生も一参加者として輪の中に加わり、生徒と

ともに考えるとともに、ファシリテーターとして、話し合いのルールが守られているかの

確認と、生徒の意見を引き出し、つないで、

深めていく役割をしています。この取組は生徒のコミュニケーション能力の向上にもつな

がり、進路実現にも役立っています。



コミュニティをつくるみんなの対等性や平等性を象徴するツール

---

コミュニティボール

---

みんなで毛糸を巻いて、コミュニティボールをつくります。


このボールを使って対話を進めます。

【コミュニティボールの作法】

ボールを持っている人が話をする。

意見を述べたい人は、手をあげてボールをもらう。まだ発言していない人に、できるだけボールをまわす。全員の意見を聴きたい時は、ボールを一周させる。ボールが回ってきた時に何も話したくない場合はパスできる。

コミュニティボールを使うと、子どもたち自身で次の話し手を決めることができます。



これらの実践は特別なものではなく年間を通して行われています。3つに共通しているのは、教員が生徒を信じる姿勢。生徒の活動や言葉を同じ人間として尊重し、じっくり向き合い、待つ態度。それでも「なぜ?」という問いや「こう思う」という考えを引き出し、「こうしよう」という行動へと導くファシリテーターの役割をしっかりと果たしていることではないのでしょうか。こうしたことを意識した授業実践が、はじめに触れた「人権が尊重される」学習活動をつくっていくことにつながっていくと思います。深い人権感覚が育まれていくことを目標に、これからも私たち教員同士が学び合い、実践交流をしていきたいですね。

※「High School Human Rights」は、県教委ホームページに掲載していますのでご活用ください。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyogaku/jinken/highschoolhumanrights.html>



まだまだ雪の季節が続きます。先生方、どうぞご自愛ください。

「High School Human Rights」へのご感想・ご要望をお寄せください。

kokoro@pref.nagano.lg.jp